essais こころみ　2022年5月

2022年5月2日（月）　晴天

先週土曜と同じく、前日の雨がさいわいして、澄んだ空気と青空。新緑が清々しく、今日も絶好の散歩日和。今日は、『書を捨てよ町へ出よう』ならぬ、書を捨てず森へ出よう！

ー　外へ出よう　ー

今日も〈絶好の行楽日和〉になりそうです。先週土曜もそうでした。今日のessaisでも話しましたが、出ないのはもったいないので、大阪城公園まで自転車散歩しました。

観光客はほぼ知らない一画、小さな森。新緑に囲まれ、風が枝をゆらし、そのささ波を耳に、こちらに話しかけられたような気分になって樹木に目をやり、しばらく風のはからいをじーと眺める。

そのまま天を仰げば、何かしらご加護につつまれているような、そんな気持ちになるのでした。この「間」がいい。だから出ないのはもったいない。至福のときに恵まれるのです。

「一人で行動したことなんて、ないです」。聞いてみないわからないものです。年令は50代前半、映画館や旅行など、余暇を楽しむのに、「お一人さま」の経験なし。

そういう人もいるんだと妙に感心しましたが、必ず「お一人さま」をお勧めはします。『男と女の生産性』を紹介して、人生後半に生産性のピークがやってくる女性は見聞をしっかり自分でとらえるためにも。

逆に男性は40代に入ると生産性が急降下し、保守的になっていくと言われるので、異質な人たちとの交流を心がけましょうとセミナーなどで勧めます。ただ男性たちは腑に落ちない表情をうかべますが。

ともあれ、休息・安静にしている時ほど活発に働く脳の部位があるそうですから、公私ともに忙しくても、小まめにほっとする時間をつくり、心身を回復させて、生産性をいいアンバイに保っていきましょう。

新緑、晴天の今日は、時間の許す限り、外へ出よう！

2022年5月5日（木）立夏　晴天

月曜からずっとよいお天気、今日は立夏、沖縄はすでに梅雨入り。近畿も今年は早まりそう。薫風五月、この晴天をせいぜい堪能しておこう。

ー 教授の語りかけ ー

今朝のessaisでも話しましたが、ちょくちょく京大OCWの動画を聴いています。真剣に聴きたいものはある程度聴き終えたので、全く馴染のない分野の講義を、〈ながら〉で。

先日来、数学、生物学、化学の学部生向け講義を、その日の気分で切り替えながら、順に聴いています。講義の内容はわからなくても、なぜか聴き続けられる。たぶん教授陣の個性によるのだろうと思います。

それにしても、分野ごとにこれほど言語が違うのかと感心しています。特に数学は極めつけ。先生が話していること、板書された数式を受講している学生たちは理解しているのだろうか？と疑いたくなります。

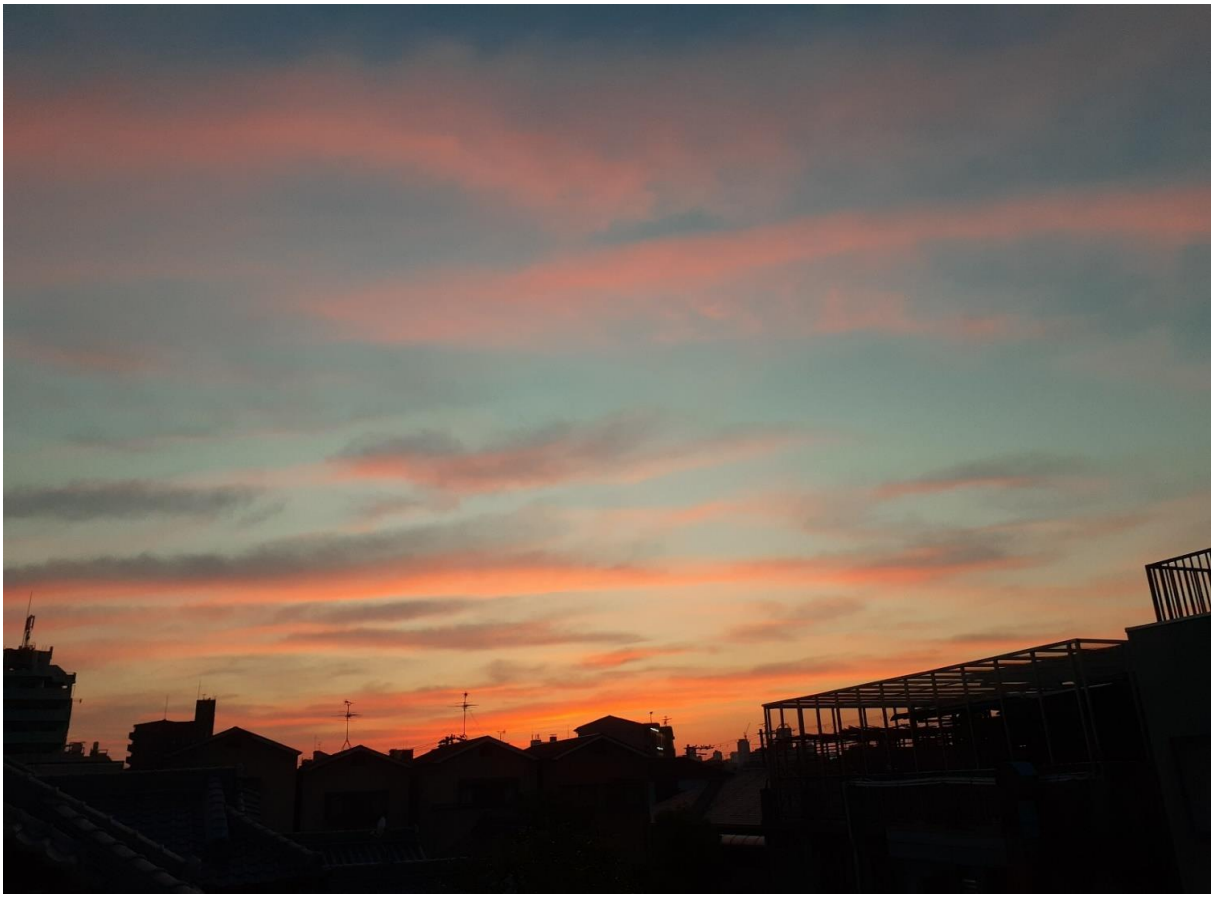
「みなさんが数学を専門としていないのは理解していますので…」と何度も付け加えながら講義は続くのですが、理系の学生なら先生の話がわかるとすれば、やはり、さすが京大、ということになるでしょうか。

その点生物学はまだ少しはつかみどころがある。細胞に関する講義で、人体の〈小宇宙〉さをあらためて感じるのでした。年を重ねてたなら重ねたなりの可能性が人体にひそんでいる、そう考えるのです。

化学は化学式が出てくる。これもまたよくわかりません。でも丁寧に、ゆっくり、日常生活の中に例をとらえて、有機分子について講義する教授。受講しているのは入学したばかりの一回生。

彼らに、何がそう思わせたのか、教授が途中で語りかけました。要約すれば、「知っている」ということ自体にはそれほど意味はない、もちろん「知らない」のは困るけど、知った上で、自分の問題意識に働きかけ、考え、創造的な活動につなげる、「知る」意味はそこにある、と。

あらためて肝に銘じました。学生たちはどう感じたでしょうか。



2022年5月9日（月） 曇り

大型連休もおわった。先週ずっと晴天が続き、真夏もの以外は衣替えをし終えた、季節のいいうちにやっておいた方がいい作業もだいたいはおわった。とにかくむし暑くなる前にやってしまおう。

－ 資質と環境と運命 －

いまの時季の晴天はほんとうに天の恵み。一週間まるまる晴天が続いた先週、仕事をしながらも気持ちはのんびりとし、ある日は大阪城公園、ある日は近所の公園の木陰で薫風五月の清々しい独り時間をすごしました。もうすぐ来る梅雨をこれでなんとか乗りきれます。

公園で一冊の本を読み終えました。今日のessaisで話した戦中戦後を生きた創業経営者の人生物語。最期まで自分を生きて、生き抜いた方。人間、生きたように逝く、あらためてそう感じました。

仕事上いろいろな想いをもった人と話すことが多いし、年令的にも出会った人の数も多い。直接面識のない、書物などをとおしても知る人の人生、運命。自分自身のことも含めて、それにしても、人ってどうしてこう違うのでしょうね。

先日日経に「長寿」の記事があって、「長寿」関しては、生まれ持った資質の影響は25%、残りは環境要因といいます。「運命」に関しては、資質と環境は半々と説く人もいます。

さて、その「環境」の2大要素は時代と人かもしれません。とはいえ、「卵が先か鶏が先か」ならぬ、資質が先か環境が先か。考え出すと、しだいに堂々巡りになっていき、ついに、運命はある程度決まっているのではないか考える。

それは安直、非科学的。ともいえますが、徹底して紐解いていけば、けっこう科学的な答えが出るのではないかと個人的には考えています。その人の営み、微細なしぐさ、振る舞いなども詳細に記録して、量子コンピュータをもってすれば、ある程度明らかになる…。

おそらく30代ぐらいまでのデータを網羅すると、壮年期から晩年期までの運命がある程度予測できる。そんな風に考えたりしますが、つまらない妄想でしょうか。

2022年5月12日（木） 雨

朝から雨、新緑に恵みの雨。週末にかけても雨のようで、まさかまた「梅雨の走り」？

－ 300年時流図 －

4年前の2018年のちょうど今の時季、5月14日づけで、300年時流図をつくっています。以前から1945年以降の時流年表はつくっていて、そのつど更新しているのですが、この年は第一次世界大戦終結から100年という記事を新聞でみて、その気になったのだと思います。

まず1945年の100年前、1845年からの出来事をたどった。するとそのうち、“うん？ こういうことが起こったということは、その前にまたどんなことが？となって、結局1745年からも追ってみることになったのです。そして「産業革命」がやはり、現在の世界をみる出発点だった。

家系は一代30年、3代で90年。現世代にとって、その上の世代のことはもわからないと言われます。今から90年前なら1932年、100年前で1922年。ちなみに1922年10月にイタリアではファシスト政権誕生、12月末にソビエト連邦が誕生しています。

社会の混沌をむしろ追い風に時に偏狭的な指導者が出てきます。当人は全能感につつまれ、雄弁さをそなえて、大衆を扇動する。過去の歴史がおしえてくれます。

1745年から1845年、続けて1945年、そして2045年までは残り23年。いろいろと見えてくるものがありますが、意外とブルーにはなりません。むしろ超然とかまえる感覚になる。「俯瞰」の効用だろうと思います。

時流も自流も時々俯瞰して、地に足がつけ、風きって、悠々と前へ進んでいくとしましょう。

2022年5月15日（日）　　最近みつけた小さな公園の藤棚

2022年5月16日（月） 曇り

土曜から曇りがちのお天気。気温も湿度も低く、紫外線も気にせずに済み、外へ出かけるにはちょうどいい土日だった。今夜は満月、さて、晴れるかしら。

－『風姿花伝』－

最近みつけた小さな公園で午後のひとときを本を読んだり、考えごとをしたりして過ごしました。神社とお寺に隣接しているのがいいのか、すごく落ち着く空間、ささやかな〈ヒーリングスポット〉。

公園南側に配置された立派な藤棚の下に石の長イスが4つあって、一番端の空いたところに持ってきた敷物を半分広げて座りました。目の前の砂地でボール蹴りをする子供たちの大きな声がさほど気にならないのは、頭上の藤棚の蔓が音を前からだけにしてくれるからでしょうか。

家を出る前に本棚から『風姿花伝』をとりました。久しぶりに見直すのもいいような気がして。最初に読んだのは今から20年前でした。本の後ろにメモで「2002年3月25日読了　北山のカフェにて」と書いています。京都府立植物園に行っていたのでしょう。

公園の周辺の大きな樹を目に、頭上には左右にひろがる藤の蔓、そこで開けるすでに読んだ『風姿花伝』。食い入るように、ではなく、少し引いて眺め、ゆったりをたどる伝書。

「花を知らんと思わば先ず種を知るべし。花は〈心〉、種は〈態（ワザ）〉なるべし」、等々。

伝書に綴られている多くは他の芸、仕事に通じるものだと、読んだ当時はつよく感銘をうけ、これは「バイブル」と思ったものです。時代も業の垣根も超えて、本当に大きな薫陶をうける一冊。

『風姿花伝』、たぶん自分では出会わなかった一冊。この本も当時知り合った人に教えてもらった。他の知、働きかけから、自分にとって糧になる知を得てきました。知の養成はそういうものなんでしょうね。

2022年5月18日（水） 晴れ

久しぶりにすっきり晴れそう。気がつけばまだ5月中旬、はやくに「梅雨の走り」があったので、季節が先に感じていた。今日はこの時季らしい気温と晴空。薫風五月。

－ SNS投稿分析から －

昨日の日経にSNS投稿を調査分析した結果が載っていました。「ロシアの言い分に沿ったツイッター投稿を拡散させている人の9割は、新型コロナウィルスワクチンに関する誤情報などを発信していた」。

一年ほど前だったか、同じく日経に載っていた記事で、SNS利用者の8割は悪意的な使い方をし、善意的な使い方をしているのは2割と紹介していました。

SNSはその社交の場が閉じた世界。時に洗脳された状態になるのでしょう。そういえば京都ウトロ地区の放火で逮捕されたのはSNSの情報を鵜呑みにしたという20代前半の青年でした。

超便利な道具は功罪の差が大きい。ちょっとした暇つぶし、遊びにネットゲームは簡単・便利、一方で子どもの依存症問題は深刻。そういえば山口県の誤振込の給付金を手にした青年があっという間に使いきったのがネットカジノとか。

ずいぶん昔、仕事で知り合った人が言っていたことを思い出します。「若者の思想の傾向は10代の頃にどういう大人が身近にいたかによって右寄りか左寄りかになる」。

それはどうか、本人の生まれ持った資質もありますから、一概には言えないでしょう。でも影響は受けて、追随するか、あるいはそれはおかしいと思うようになるか。かの大新聞社の社主は後者でした。

身近な大人、そしてネット上の見知らぬ大人に翻弄されて、自分の資質を冒すことになってはいけない。自分の身、精神を守るのに、けっこう力のいる現在です。

2022年5月18日（水）

阪神百貨店の手づくり作品展に長い付き合いの友人が出展
三日間ホテル住いをしての参加、閉店時間が8時を過ぎるので、
夜にひと息できるよう赤ワインを持参。
「これまでなら車中泊できたけど、さすがにもう…、ホテルは楽！」だそ
そりゃそう、おたがいにいい年令になりましたから。

2022年5月20日（金） 曇り

今日は一日曇り空のよう。来週はまた晴れの日が続くそうで、梅雨入りにはまだ間がある。明日は「小満」。

－ 頭の中の探検 －

「考える」作業はなかなか愉しいものです。ちょっとした探検です。自他ともに、公私ともに、その時間が多い、自然と多くなるというのは仕合せなことかもしれません。もって生れた質に適っていると思いますから。

ずいぶん前になりますが、「魅力的」とはどういうことかと考える機会がありました。魅力的に映るのは、何がそうさせるのか、そんなことを考え、一つの公式に表したことがあります。

社会一般によく使われている言葉なんだけど、さて、その意味するところは、本質は何？ と問われてみると、はて？ と即答に窮すようなこと、たくさんあります。

外から寄せられたものでは、いつかは「学び」、別ないつかは「自分の軸」でした。テーマをもらってからずっと頭の中をめぐって、ある瞬間に、あっ!と閃き、一つの構図が出来上がる。「お宝、発見」、です。

自分の内からものも、折に触れあがってきます。『自業のすすめ』を編集するときには、一連がその作業、けっこうな〈探検〉でした。かなり頭をめぐらせましたが、結果を目に見えるカタチに出来たのはよかった。

外から今一つテーマを与えられています。しばらく考えることになりそうです。まだ先に光は見えません。当面探検が続きそうです。さて、「お宝、発見」になりますやら。

2022年5月21日(土)　　NPO法人 えんぱわめんと堺 総会＆20周年イベントへ出席

2019年に少しお手伝いした団体さん。活動をとおして積み上げた〈知の資産〉を目に見えるカタチにほとんどできてないという話をきいて、「なんともったいない！」。

この一言が響いたとのことで、「コロナ禍」にプロジェクトを立ち上げ、２０周年に合わせて刊行。

こういうものは、想いはあっても、なかなか実行できないもの。でもよくぞ完成させられました。刊行きっかけのエピソードも添えられていて、わたくしの名前を出てきます。

2022年5月23日（月） 晴れ

昨夜まさかの雷、雨。今日は気温も上がるので、むし暑くなるはず。アジサイも咲き出した。梅雨入りは来月上旬の予想。

ー 流していいこと駄目なこと ー

わかったつもりが、まだまだわかっていなかったとわかる。何度となく経験していることですが、ふたたびその思いにかられています。「しがらみ」や「世間」というものがまとわりつき、自分でも意識しないほど、とらわれているのが日本人の多く。そう教えてもらい、ある程度想像はできているつもりですが、そうでないかもしれない。あらためて考えさせられ

大抵のことは受け流しても、人間の尊厳やその人の精神性を冒すようなことはけっして見逃していけない。「絵がヘタ」と言われても、皆でランチへ行くのに一人誘われなくても、そんなことは大したことじゃない。でも例えば、上下関係を利用して、理不尽な行為をとったり、人の弱みにつけこんで自分に従わせようとする相手を許してはいけない。

実例1. 総務に所属する20代前半の女性。社員の何人かが定期購読する専門誌の代金徴収を任されていた。ある日代金を受け取りに先輩男性社員の席へいき、促すと、返事がない。もう一度声をかけても知らん顔。三度目で女性の方を振り向いた男性、うるさいなぁ!という表情をして、財布ととりだし、なんと代金を女性の前に投げた。

お金を投げる?! 女性には考えられない行為。さて彼女はどうしたか。散らばった目の前のお金をみて、先輩社員を一瞥して、踵を返し、自分の部署に下りていきました。まったく何も言わず。何も言わないことが、言っているのです、よくぞ、そんな品のないことができるな、と。

しばらくすると同僚が代わりにお金を持ってきて、本人を弁護。女性は多くは語らず、ただ尊敬できる先輩でないと思っただけで、ごくごく普通に仕事でのやりとりはしたのでした。先輩男性社員の方はということ、もう懲りた、という感じだったそう。

実例2. 入社して会社にも慣れた女子、ある日部屋には上司と二人。30才は年上のその男性上司、どうして知ったのは、女子があまり人に知られたくないことを知っていて、そのことを話し出し、こともあろうか、「みんなに言おうかな…」。

うんと年上の大人が、まだ若い女子を脅すような行為。あるまじきこの言動に、女子が咄嗟に放った言葉、「いいでしょ、うけて起ちましょ」。そう言って、相手の顔を凝視。上司はギョッとしたそうです。少し間があって、上司は冗談、じょうだん、という風にうにゃむにゃにした。女子も尾をひかず、普通にしたそうですが、上司にすれば、それがむしろコワかった

人間にある善悪。ダメなものはダメとハッキリ表すことが自分や自分の回りを守ることだし、「人生の質」の面からも大事なこと。でもなかなかできないといいます。なら、演劇の手法で体に覚えていくことも一つ。ともあれ自分に合った方法をつけて、けっして流してはいけないことは流さず、心身を健やかに育てていきたいものです。

2022年5月24日（火）　　昼休憩に大阪城公園へ、途中ハタッと我にかえる一件

暑いけど、カラッとして、梅雨も近いと思うと勿体なく、北浜から地下鉄で森ノ宮へ昼散歩。近日中に一つ小さな原稿を出さねいといけなくて、そのことを考え、別途自分に課した文書づくりのこともなかなか進んでいないこともあって、何をのんびりしているんだろう私は…と想い、ハタッと我にかえったこと一つ。

昨年初めに北梅田ビルから引越する際に大抵のものは整理して、身軽になって以来、何かしら妙に落ち着いてしまっていたと気づいたのです。それはダメなんじゃないか、もっと〈混沌〉としないと…。そうじゃないと、精神が退化していく…、提出原稿は今日中に書く、文書づくりの前半は今月中に書き終える、そうしなければ！

気を引き締めていこう、そう自分に言い聞かせたのでした。

2022年5月26日（木） 曇り

昼下がり、今のところまだ曇り空。夕方には雨がふりそうで、明日にかけて荒れるとか。気温は昨日より低いが、湿気が…。梅雨間近。

－ 時々〈混沌〉 －

一定の時間が過ぎてみて、ハタッと我にかえり、目が覚めるような感覚になる、そういう時があるものです。なんどか経験していますが、〈覚め〉具合が一番大きかったのは、1998年の夏です。この時のことは文書にまとめています。「未完自業史」にも紹介しているリーズレター特別号『旅は終わりに近づいて』です。

24日、薫風五月の晴天が貴重に思えて、お昼に大阪城公園へプチ散歩したそのいき帰り、直近にあったことや、仕事のこと、自分に課した仕事など、いろいろと考えていて、ハタッと、小さな目覚め。“なにをのんびりしているんだ私は…”。

一昨年の年末から昨年1月にかけての事務所引越しの際、公私ともに大がかりな整理整頓をして、心身ともに身軽になった気がして、なぜかしら、妙に落ち着いてしまっていたことに気づいたのです。

“これではダメだ、もっと混沌としなければ…”。少々不安定でも、その方が自分の精神には合っている。そういう性分と申しましょうか、経験的にわかったことです。精神がピリリとして、ある種の闘争心がわく。

「安定」に越したことはないけど、時々〈混沌〉あっての賜物。

2022年5月30日（月） 晴→曇

とうとう夏、土日はよく晴れ、陽ざしは真夏。それでもカラッとしていたからよかった。衣替、真夏用はのこしていたけど、早々に出さなければ。今日は旧暦5月1日、新月。

－ 小さく、目立たず －

熟年のシンガー仲間が一緒に歌を出しています。今こそ歌を！と大らかに語りかけています。また別の歌い手ｸﾞﾙｰﾌﾟは、年を重ねて本当のやさしさを知ったと歌っていました。

ある一定の年令、経験を重ねると、自他ともに俯瞰できるようになる。考えてみれば、それが一番の年の功かもしれません。「生かされている」という想いが自然にわいてきて、言葉にする人も少なくありません。

アーティストの人たちは、自分に〈武器〉がありますから、それをつかって世の中に、ある意味還元するような活動をする。影響力が大きいので、その効果も大。

でも一般の人たちの中にも、範囲は小さくても、社会の隅々に他の人ために良きことをする人がたくさんいる。特に日本の場合は、とくにかく目立たないように、というのがミソのよう、そうみています。

メディアや人づてに聞く話からすると、大丈夫か日本の組織社会は、と憂いますが、一方で、公私ともに身近で関わる人たちからは、頭のさがる想いをすること多々。

そこでその人たちが連携・協働しては?と思いますが、それは日本的コミュニケーション習慣がジャマをする。互いの小さな世界は、小さいといえば、異質な世界。ギャップを許容して、何か新しい発想や行動につなげるための、〈働きかけ〉が苦手。

だからなまじ協働せず、何か大きなお題目がある時だけ一緒に動く。その方が合っていて、生産性も安定して維持でき、社会全体でみたときには、功を奏している。そうみていますが、いかがでしょう。